

2022年5月20日

各 位

会社名 川西倉庫株式会社  
代表者名 代表取締役社長 川西 二郎  
(コード番号 9322 東証スタンダード)  
問合せ先 常務取締役 高杉 誠  
(TEL078-671-7931)

長期ビジョン『KAWANISHI 2030』及び  
中期経営計画『Vision2024 物流イノベーションへの挑戦』の策定に関するお知らせ

当社はこの度2030年度に向けた長期ビジョン『KAWANISHI 2030』及び2022年度から2024年度までの3年間を対象期間とする中期経営計画『Vision2024 物流イノベーションへの挑戦』を策定いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

## 1. 長期ビジョン『KAWANISHI 2030』

### (1) 策定の背景

当社グループは2018年に創業100年を迎え、次の100年に向けさらなる収益力・成長力の向上を図るべく新たな一步を踏み出したところです。一方で我々を取り巻く環境として新型コロナウイルスの蔓延をきっかけに、働き方や社会の価値観などが大きく変化し、デジタルトランスフォーメーションの加速や、環境に関する企業の課題などが大きくクローズアップされることとなりました。当社グループにおいてはそれらの課題に取り組みながら大きく成長する指針として長期ビジョンの策定が必要と考えるに至りました。

### (2) ロードマップ

#### ① Phase I：2022～2024年度

業績の安定を維持しながら財務基盤を強化することを第一目的とし、前中計期において新設した倉庫に対する集荷強化による早期安定稼働を前提として、投資を最小限度に抑えながら、成長戦略の具体的な施策を策定する時期とします。社会の変革を鋭敏にとらえながら、今後のあるべき物流企業の姿を模索し中長期的な投資施策を計画してまいります。

※詳細は後述、「中期経営計画 Vision2024 物流イノベーションへの挑戦」をご参照

#### ② Phase II：2025～2027年度

Phase Iにおいて築いた安定的業績基盤の土台の上に2030年の飛躍的發展を睨みながら、新しい取り組みを一気呵成に進める時期とします。Phase IIIにおける成長戦略完成を見越し、大幅な業績の伸長を計画してまいります。

### ③ PhaseⅢ：2028～2030年度

Phase I、Phase IIにおいて進めてきた様々な成長戦略の具体的施策が成果として成就してゆく時期とします。

#### (3) 業績目標

2030年度（2031年3月期）の連結業績の目標を以下のとおりとします。

	目 標 値
営業収益	320億円
営業利益	20億円
営業利益率	6.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	14億円

#### (4) 投資計画

計画期間内での投資を以下の通り予定します。

項目	投資額	投資時期
既存施設の再構築	約20億円	Phase I, II, III
基幹システムの再構築	約10億円	Phase II
成長に向けた戦略的投資	約70億円	Phase II, III
合計	約100億円	

## 2. 中期経営計画『Vision2024 物流イノベーションへの挑戦』

### (長期ビジョン『KAWANISHI 2030』のPhase I)

#### (1) 基本方針

- ①取引先顧客へのサービス向上を第一とし、当社のステークホルダーへの信頼関係の構築を維持いたします。
- ②健全な財務体質を意識しながら経営基盤の安定と強化を基本とし、筋肉質な体質を実現すべく、既存事業について利益率の改善を図ります。
- ③高度情報化社会において激しく変化し続けるビジネス環境に対応し、日進月歩の最新技術の適用検討を進めながら、地球環境にやさしい物流をテーマに SDGs やカーボンニュートラル等これからの社会で企業に要求される様々な課題に取り組みます。

#### (2) 基本戦略

##### ① 既存事業の拡大・強化

- ・物流センターの機能拡充／スマート倉庫／スマートロジスティクス構想の検討
- ・物流サービスの強化／Vendor Managed Inventory（VMI 倉庫）の提案  
新設倉庫\*の安定稼働および集荷強化

新設倉庫\*：上山蔵王倉庫（2020年6月開設）、六甲物流センター第二倉庫（2021年7月開設）、ベイブリッジ営業所（2021年11月開設）

- ・ 運送部門強化（収益の拡大と利益率の向上）
- ・ 海外物流業務の強化
  - インドネシア倉庫第二期増設（2022年開業予定）の安定稼働と集荷強化、北米域の物流強化、ASEAN 域内の物流強化、新規地域貨物の取り組み強化
- ・ 輸出貨物案件の取り扱い増加
- ・ メーカー物流の強化
- ・ 通関体制の強化
  - 通関士増強による通関業務の品質向上と取扱件数の増加

② 成長に向けた取組と戦略的投資の調査研究

- ・ 次世代型荷役機械装置や業務効率化ツールの検討
  - （小ロット貨物に対応したマテハン／機材の投入）
- ・ 次世代型物流倉庫の建設地/規模の検討
- ・ GDP 倉庫・運送の調査検討
- ・ 基幹システム再構築の検討
- ・ 既存施設の再構築の検討
- ・ 地球環境にやさしい物流構築の検討
  - （SDGs の取組／カーボンニュートラル実現に向けた取組）

③ 社内体制の強化

- ・ 地球環境にやさしい物流の一環としてペーパーレス化促進による  
オフィスワークの改革（具体的目標・指針の確立）
- ・ RPA などの省人化に寄与するシステムの導入による業務集約
- ・ コンプライアンスの強化
- ・ システム化推進による競争力強化
- ・ 営業体制の強化
- ・ ダイバーシティへの対応
- ・ 労働力不足に対応した人財戦略の強化
- ・ 社内教育体制の充実
- ・ 財務基盤の強化

（3）業績目標

2024年度（2025年3月期）の連結業績の目標を以下のとおりとします。

	目 標 値
営業収益	260億円
営業利益	12億円
営業利益率	4.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	8.4億円

注) 本資料は、現時点で当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、リスクや不確実な要素も含まれることから、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

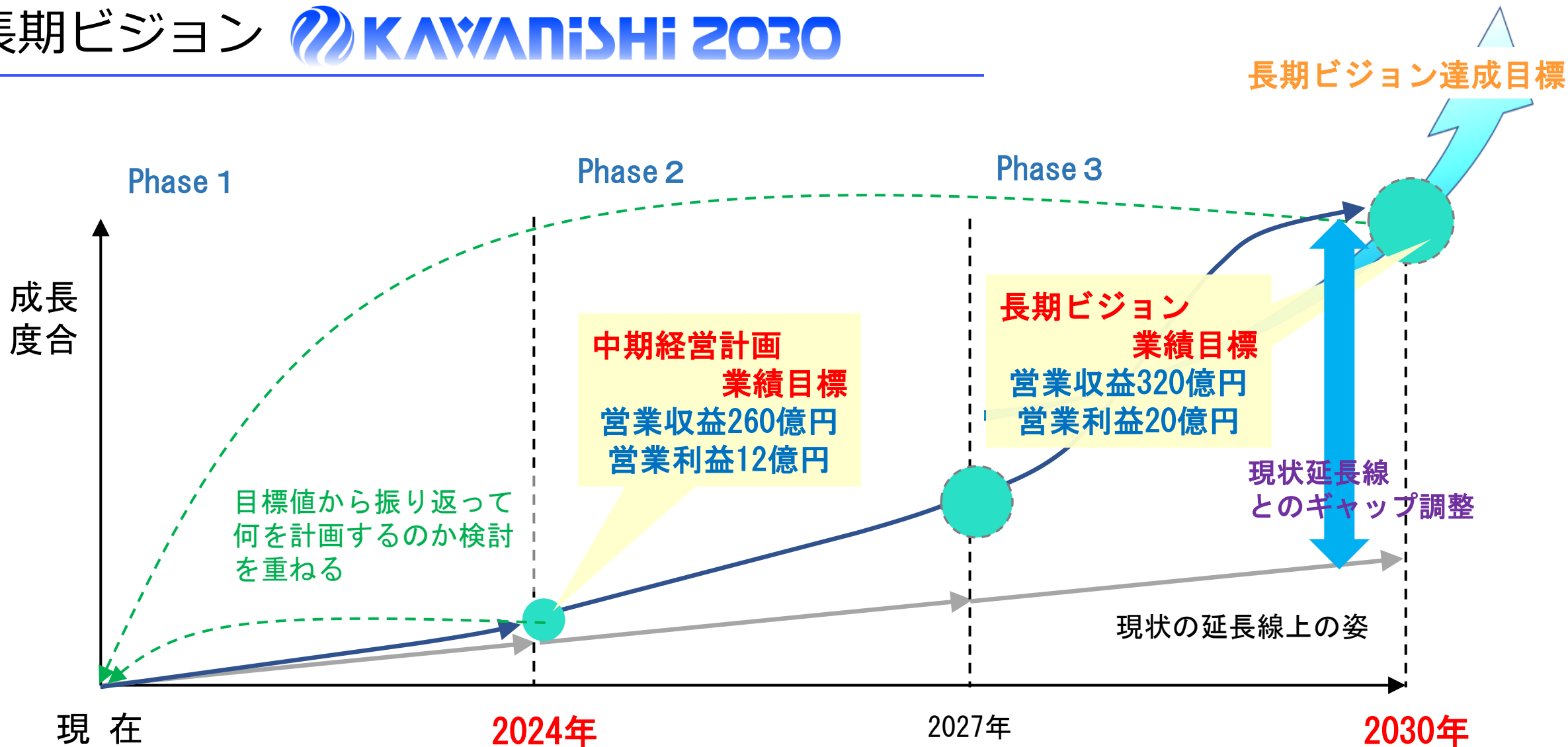
以上

長期ビジョン  
「**KAWANISHI 2030**」

中期経営計画  
「**Vision2024 物流イノベーションへの挑戦**」

**2022年5月20日**  
**川西倉庫株式会社**

# 長期ビジョン



Phase 1 2022~2024年度

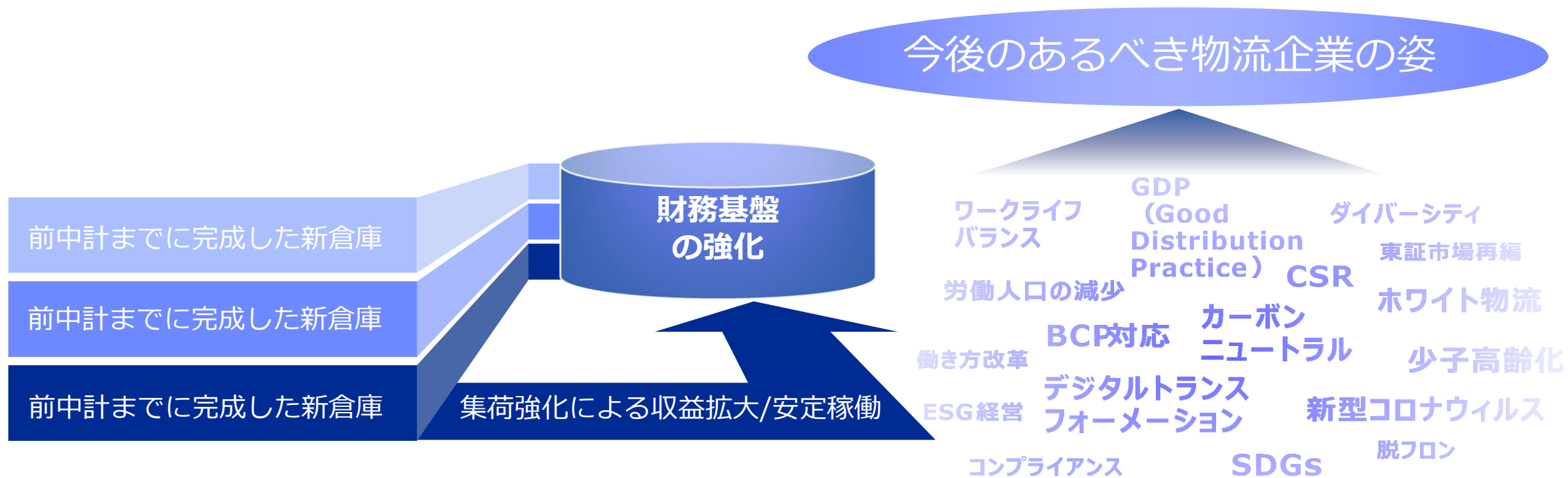
Phase 2 2025~2027年度

Phase 3 2028~2030年度

## Phase 1 成長戦略の具体的な施策を策定

業績の安定を維持しながら財務基盤を強化

前中計期に新設した倉庫の集荷強化にて早期安定稼働をめざす



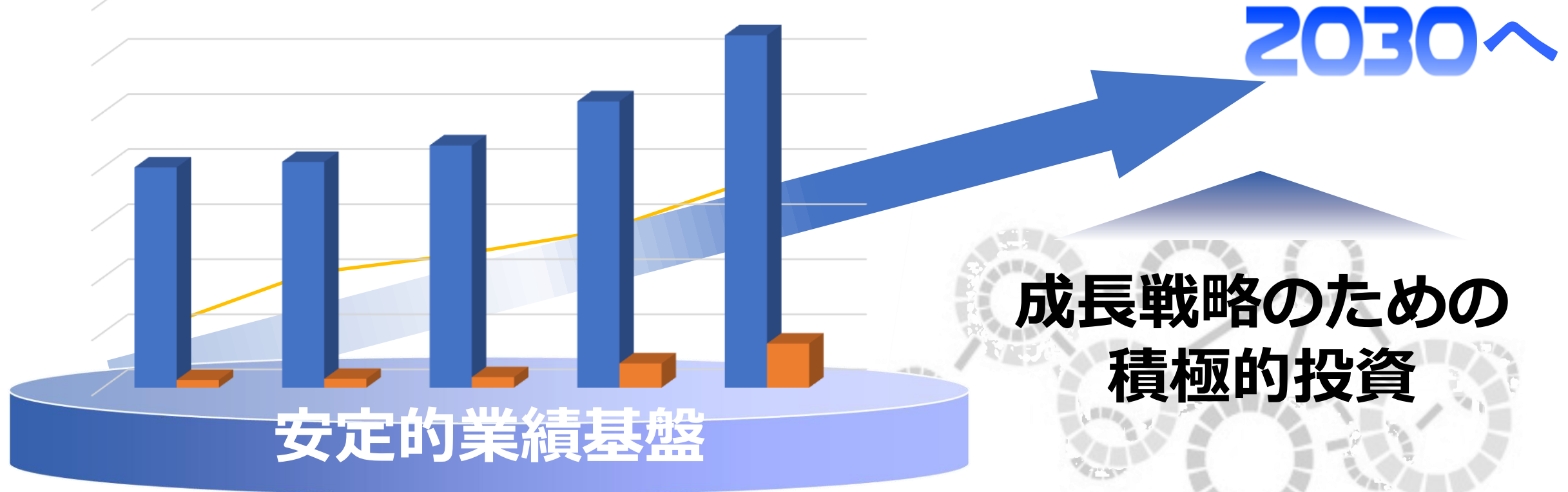
Phase1 2022~2024年度

Phase2 2025~2027年度

Phase3 2028~2030年度

## Phase 2 新しい取り組みを一気呵成に進める

Phase 1 にて築いた安定的業績基盤を土台として2030年への飛躍的發展を睨む  
Phase 3 での成長戦略の完成に向けて大幅な業績伸長を計画





Phase1 2022~2024年度

Phase2 2025~2027年度

Phase3 2028~2030年度

## Phase 3 Phase 1・2にて進めてきた様々な成長戦略の具体的施策の完遂

### 川西倉庫グループ業績目標

営業収益 : 320億円  
営業利益 : 20億円  
営業利益率 : 6.3%

新設倉庫安定稼働による  
収益利益の伸長

業務効率化による  
利益拡大

### 次世代物流ソリューションへの挑戦

## 成長戦略に向けた投資計画の概要（2022年～2030年度）

既存施設の再構築 Phase1、Phase2、Phase3	20億円
基幹システムの再構築 Phase2	10億円
成長に向けた戦略的投資 Phase 2、Phase 3	70億円
TOTAL	100億円

物流センターの機能拡充/スマート倉庫他

倉庫その他の設備投資（定温機更新他）

次期基幹システム

業務効率化ツール他

次世代型物流倉庫/VMI・GDP倉庫/運送強化

地球にやさしい物流構築（カーボンニュートラル実現に向けた取組 他）

Phase 1  
2022～2024年度

Phase2  
2025～2027年度

Phase3  
2028～2030年度

中期経営計画  
「Vision2024  
物流イノベーション  
への挑戦」

基本方針

- 取引先顧客へのサービス向上を第一とし、当社ステークホルダーへの信頼関係の構築を維持いたします
- 健全な財務体質を意識しながら**経営基盤の安定と強化**を基本とし、筋肉質な体質を実現すべく、既存事業について利益率の改善を図ります
- 高度情報化社会において激しく変化するビジネス環境に対応し、日進月歩の最新技術の適用検討を進めながら、**地球環境にやさしい物流**をテーマにSDGsやカーボンニュートラル等これからの社会で企業に要求される様々な課題に取り組みます

## 基本戦略

### ① 既存事業の拡大・強化

- ▶ 物流センターの機能拡充／スマート倉庫／スマートロジスティクス構想の検討
- ▶ 物流サービスの強化 Vendor Managed Inventory (VMI 倉庫) の提案
- ▶ 新設倉庫の安定稼働および集荷強化
- ▶ 海外物流業務の強化
- ▶ メーカー物流の強化
- ▶ 運送部門強化
- ▶ 輸出貨物案件の取り扱い増加
- ▶ 通関体制の強化

### ② 成長に向けた取組と戦略的投資の調査研究

- ▶ 次世代型荷役機械装置や業務効率化ツールの検討
- ▶ 次世代型物流倉庫の建設地／規模の検討
- ▶ GDP 倉庫・運送の調査検討
- ▶ 既存施設の再構築の検討
- ▶ 基幹システム再構築の検討
- ▶ 地球環境にやさしい物流構築の検討

### ③ 社内体制の強化

- ▶ オフィスワークの改革
- ▶ コンプライアンスの強化
- ▶ ダイバーシティへの対応
- ▶ 人事制度改革の実施
- ▶ 営業体制の強化
- ▶ RPAなどの省人化に寄与するシステムの導入による業務集約
- ▶ システム化推進による競争力強化
- ▶ 労働力不足に対応した人財戦略の強化
- ▶ 社内教育体制の充実
- ▶ 財務基盤の強化

## 次世代物流ソリューションへの挑戦

### ① 既存事業の拡大・強化

- 物流センターの機能拡充／スマート倉庫／スマートロジスティクス構想の検討
- 物流サービスの強化 Vendor Managed Inventory (VMI 倉庫) の提案

### ② 成長に向けた取組と戦略的投資の調査研究

- 次世代型荷役機械装置や業務効率化ツールの検討
- 次世代型物流倉庫の建設地／規模の検討
- GDP 倉庫・運送の調査検討

### ③ 社内体制の強化

- R P A などの省人化に寄与するシステムの導入による業務集約
- システム化推進による競争力強化

# 川西倉庫グループの取り組み

## 地球にやさしい物流

### 経 済

- ・ D X の推進
- ・ グリーン物流パートナーシップへの取り組み
- ・ 物流総合効率化法の取り組み
- ・ 最適なサプライチェーンの構築
- ・ 資源効率と省エネの促進
- ・ インドネシアでのコールドチェーンの構築  
(現地スタッフ採用・現地雇用の促進)
- ・ 賃金の支払いを通じた不平等の削減
- ・ 労働力不足に対応した人財戦略の強化

### 社 会

- ・ コーヒー豆やココア豆の生産地である開発途上国への支援協力 (IWCA協会への加入)
- ・ ホワイト物流への取り組み
- ・ 物流サービスの品質向上の強化
- ・ ダイバーシティへの対応
- ・ 多様性に配慮した労働環境の整備
- ・ 人事制度改革の実施
- ・ 社内教育体制の再構築
- ・ 持続可能なインフラの整備
- ・ D X 推進による機械化、自動化による労働負担軽減
- ・ 働き方改革の推進
- ・ 全社員における夏季休暇 5 日 & 冬季休暇 3 日取得の徹底

### 環 境

- ・ 倉庫施設 8 箇所での太陽光発電の継続
- ・ グリーン経営認証の取得
- ・ 物流総合効率化法の取り組み
- ・ 脱フロン化の取り組み
- ・ 次世代エネルギー活用の検証
- ・ 資源効率と省エネの促進
- ・ リサイクル物流の促進

### ガバナンス

- ・ グループガバナンスの体制強化
- ・ I R 活動を通じた投資家との対話の促進
- ・ 取引に関する法令の遵守と継続的な啓発
- ・ 協力会社との対話の活性化
- ・ S D G s の目標達成の検証
- ・ 取締役会での定期的検証

